

うらやす P-Life

ひとひと
女と男が認めあい、共にかがやくまち・うらやす

vol.16

2016年
9月



男女共同参画ニュース
男女共同参画センター《ルピナス》

P-LifeのPとは
Personality (個性・人格)を尊重する
Positive (積極的)な生活に
Plus となる情報紙という意味です。

特集

いま防災に必要なこと

女性の視点が命を守り、防災を変える！

多くの悲劇を生み出した東日本大震災から5年。2016年には熊本大地震が発生して甚大な被害が起こるなど、災害が頻発しています。これまでの震災の経験をふまえ、災害に対する備えはどうあるべきか、専門家や市民に聞きました。



防災・減災の
専門家が
アドバイス！

浅野 幸子 減災と男女共同参画 研修推進センター

阪神・淡路大震災で在宅避難者の支援活動に従事。内閣府男女共同参画局「男女共同参画の視点による防災・復興取組み指針」策定委員を務めるなどして、防災に性別・年齢・障がいなどを含めた多様な視点を入れるべく精力的に活動中。減災と男女共同参画研修推進センター共同代表。早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員。

なぜ必要？ 防災に、男女共同参画の視点

すべての人が参画して実現する災害への備え

災害への備えには、普段から男女が共に参画して準備を進めていくことが不可欠です。

キーワードは「多様性」。日常生活から災害時の避難所／仮設住宅、復興のそれぞれのステップで大切なことをまとめました。



日常の備えから多様性への配慮を

性別や年齢、持病・障がいの有無など、地域住民の多様なニーズを平時から想定し、それに配慮した備えをしておくことが必要です。また、住民や地域の

団体と連携し訓練などの防災活動を行い、地域の防災力を高めておくことが大切です。

基本的な備蓄品目の例

- 基本となる備え：水、食料、その他生活必需品（最低3日分）
- 女性：生理用品（ナプキン、サニタリーショーツ、中身の見えないゴミ袋など）、下着など
- 子ども：授乳用品（アレルギー用ミルク、軟水、哺乳瓶とその消毒剤など）、離乳食（アレルギー対応食含む）、オムツなど
- 高齢者：オムツ、薬など

（内閣府「備蓄チェックシート」より）

専門家に聞きました！



災害時に命や健康を守っていくためには、性別や持病・障がいの有無など、多様なニーズに配慮しておく必要があります。特に災害というひっ迫した状況で、例えば育児中の人や高齢者、障がいをもつ人など住人の安全確保に柔軟かつ適切に対応していくには、当事者や家族、支援者の知識・経験が欠かせません。日常から多様な意見を取り入れて、地域の防災力を高めていくことが重要です。



これからの防災・復興に必要なことー「人」と「コミュニティ」を中心の環境整備を

防災・復興というと、大きな堤防をつくったり、道路整備や巨大な建物をつくるイメージがありますが、それで私たちの命と暮らしを守りきることはできません。そこで重要なのが、“コミュニティのレジリエンス”という考え方。特に平時からの、女性や若者、障がいをもつ人の社会参画が重要です。

その理由は支援の質を高めること。災害時に困難な立場に置かれる人や家庭生活の目線をもった人の発言力が高まらなると、適切な支援につながらず、避難生活から復興にいたるまで、被災者支援の質全体が低下してしまうのですーここでも大切なのは、人々の多様な視点です。

レジリエンスとは？

「レジリエンス (resilience)」は心理学の分野から広がった言葉で「復元力」を意味する言葉です。防災の分野では広く「回復力」や「防災力」という意味で用いられており、災害における地域の問題解決能力とも捉えることができます。

防災・復興で大切な項目

- 女性の参画・リーダーを増やす（障がいを持つ人、少年・少女、外国人からも）
- 女性リーダーの必要性を地域の防災に関わる全員が学ぶ
- 防災活動に市民が参加しやすい仕組みをつくる

専門家に聞きました！



災害対策基本法で定められた「地域防災計画」には性別の配慮、女性や障がいをもつ人の参画を含む多様性の視点が盛り込まれています。しかし、地域防災計画にもとづいて災害対応マニュアルがあっても、すべての人が災害時にそれを滞りなく実行できるとは限りません。普段からマニュアルを使ってトレーニングすることが重要です。そうでなければ、災害時に力を発揮することは難しく、特に子どもや高齢者・障がいをもつ人・病気の人により困難な状態に陥ることになります。また、避難から復興に至るプロセスでは、ドメスティックバイオレンスや、性暴力、虐待が発生していることもわかっています。住民の人権と安全、生命を守りながら復興を進めていくために、平時から暴力防止のための啓発を行い男女ともに相談しやすい体制をつくる必要があります。平時の問題を解決しながら、災害時の困難を減らすことにつなげる。これこそが、災害リスクを削減しコミュニティを強くすることにつながるのです。



避難所では住人のニーズ把握が最重要

避難所の開設・運営と避難生活（在宅含む）においては、さまざまなニーズを把握することが不可欠です。そのためには、暮らしの目線・経験が豊富な女性の力が重要です。地域リーダーのうち、少なくとも3割は女性が入るようになる必要があります。

専門家に聞きました！



避難生活では生活に関わるさまざまな問題が出てきます。家庭の経験や知恵をより多くもった女性が地域の防災のリーダーとなって動けるかどうかポイント。しかし現状では「女性は炊き出し」といった性別役割を当たり前とする風潮があり、女性がリーダーになりづらいと言えます。女性リーダーの参画を進めるためには、まずは女性同士の小グループを立ち上げて防災活動に参加できるようにすることが必要でしょう。

避難所で必要な項目

- 騒音に配慮しつつプライバシーを守るためのパーティション
- 異性の目線が気にならない物干し場、更衣室、休養スペース
- 男女別トイレ、女性専用トイレの整備
- 単身女性や女性のための世帯用エリア
- 介護や環境配慮が必要な高齢者や障がいをもつ人のためのエリア
- 誰もが使いやすいバリアフリー仕様
- コミュニケーション促進のための集会所、集会スペースの設置
- 子どもたちのための遊び・学習スペースの設置

（内閣府「備蓄チェックシート」より）

浦安市の防災対策のいま

浦安市では、災害対策基本法にもとづき、地域防災計画を策定しています。策定した計画を、災害時に速やかに実践するためには、日頃の訓練が重要です。自治会自主防災組織連絡協議会を対象に年2回講習会を行っているほか、市職員に対しては役職別に年1回、災害発生時に避難所に直行する職員に対しても年1回、研修を行っています。また、直近の計画改定において、市の男女共同参画センターと協働し、多様な視点で防災に臨むことの重要性を随所に盛り込みました。特に、避難所は緊急を要するニーズが集中する場所です。複雑かつ多様化するニーズにいち早く気づき、対応できる体制を築くためにも、女性の参画を進めていくことが不可欠だと考えています。（防災課）



防災に活躍する 市民の声を聴きました！

浦安市内には、地域の防災で活躍する市民がたくさんいます。そんな市民に、活動内容や浦安市の防災について感じることを聞きました。

防災活動を楽しく自然に！

市民活動団体 親子のための防災 代表 竹内有紀子さん



▲「親子のための防災」の竹内有紀子さん（左）と永田順子さん。

◀ 2015年に作成した「あんしんガイドうらやす」。



■ 活用してもらったことに嬉しさと責任を感じて

東日本大震災のあと、市民大学の講座で受講生と一緒に「防災ガイド」をつくりました。完成したガイドは浦安市の予防接種のお知らせと同封されるなど、浦安市で活用していただきました。

自分たちでつくった情報が市民に広がっていった嬉しかったと同時に、責任感も覚えました。掲載した情報は必ずしも自分たちで試したものではありませんでしたので、ガイドの見直しをしたいと思います。仲間と「親子のための防災」を立ち上げました。

■ 楽しく自然に防災意識を取り入れたい

見直しが実現したのは2015年のこと。市民活動補助金事業として、自分たちで実際に試して役立つ内容を取捨選択した「あんしんガイドうらやす」を作成しました。それに併せて、子育て中の親子が楽しく防災に役立つ知識や体験を学べるワークショップも開催しています。

かしまって「防災を学ぼう！」とするのではなく、より多くの人々が和気あいあいと自然に防災への関心を深める機会を増やしたい。そう願って、これからもこの活動を続けていきます。

防災で大切なのは一番困っている人の話を聞くこと

防災アドバイザー 細川顕司

■ 20～40代の意見は防災計画に反映されている？

長年、仕事で防災や災害対策に携わってきました。その経験をとおして、防災の在り方を疑問に思うことがありました。

自治体は地域防災計画を策定する際、市民の声を盛り込みます。その際、意見を聞きやすい人の話を取り入れる傾向が見られます。これは、意見聴取の場が平日の日中に行われており、子育て中の人や働いている人たちが参加できないため。20～40代の貴重な意見が計画に反映されづらいときがあるのです。

■ 教訓を活かしつつ、柔軟な災害の備えを

浦安市は首都圏の数少ない被災地域です。その教訓を防災に活かすのはもちろん大切なこと。しかし、災害はどれも、規模・発生状況・被害など、同じものはありません。東日本大震災の体験に固執することなく、どんな災害が来ても対応できる柔軟性が必要です。その際、大事なのが、男女の別なく子育て中や働いている人たちの意見を多く取り入れること。多様な視点こそがこれからの防災に必要です。



男女共同参画センター《ルピナス》information

男女共同参画センター《ルピナス》では、「相談」・「講座の開催や図書の貸出し等を通じての情報提供」・「市民の交流・ネットワークづくりの支援」をしています。

開所時間 / 場所

時間 月～金 8:30～17:00
(土・日・祝・年末年始休み)
場所 浦安市役所 10階

相談

女性が抱えるさまざまな問題を自ら解決するための支援をしています。

- 女性のための相談（予約制）
毎週 月・火・木 10:00～16:00 ※このうち3回は 14:30～20:00
第2水・第4金 14:30～20:00
- 女性のための法律相談（予約制・月2回）

人権に関するさまざまな問題について、法務大臣から委嘱された人権擁護委員が相談に応じます。

- 人権相談
毎月 第2月 13:00～15:00

個室で相談が受けられます▶
(※秘密は守られます)

相談室

